

博士論文（要約）

論文題目：兩晉十六國時代の「正統」と「周縁」

氏名：板橋 暁子

目次

序章 兩晉十六國時代における王朝の「内」「外」	1
はじめに	1
第二節 「天下」と「内」「外」	2
第二節 魏晉期における「内」「外」をめぐる研究	9
小結	14
第一章 西晉愍帝政權再攷——長安からの「中興」と秩序形成——	27
はじめに	27
第一節 愍帝政權の成立	28
第二節 長安朝廷と宗室諸王	30
第三節 長安朝廷と各地の親晉勢力	32
第四節 愍帝と元帝をめぐる同時代の言説	38
小結	43
第二章 「周縁」からみた東晉の正統性——前涼における西晉愍帝年號「建興」奉用について——	48
はじめに	48
第一節 前涼の成立と兩晉交替	55
第二節 愍帝年號「建興」の繼續	59
第三節 張駿の上表文	62
小結	67

第三章 西晉末期における拓跋猗盧の代公・代王冊封とその背景	82
はじめに	82
第一節 猗盧の代公・代王冊封の経緯	84
第二節 拓跋部と大邗城南碑	93
第三節 拓跋部・段部・慕容部（および仇池楊氏）と晉朝との冊封関係	104
小結	112
第四章 劉琨「勸進表」四首からみた兩晉交替	128
はじめに	128
第一節 劉琨「勸進表」四首の概要	130
第二節 「勸進表」A・B・C・Dの内容 ※原文は章末【資料1】【資料2】参照	130
第三節 劉琨「勸進表」に対する司馬睿政權の對應	136
小結	138
【資料1】『類聚』所収の「勸進表」A・B・C	149
【資料2】勸進表D	150
第五章 東晉初期の周縁と天下觀——慕容廆と陶侃の往復書簡を手がかりに——	156
はじめに	156
第一節 慕容鮮卑と陶侃との書簡をめぐる状況	157
第二節 書簡本文と校勘、和訳	161
第三節 慕容部側の企圖	166

第四節 陶侃・東晉朝廷側の認識	169
小結	172
第六章 東晉中期における「内」と「外」——慕容皝の遣使・書簡を手がかりに——	180
はじめに	180
第一節 慕容皝の即位と燕王自稱	183
第二節 東晉朝廷における劉翔の辨論	184
第三節 慕容皝から東晉成帝への上表文	191
第四節 慕容皝から庾冰への書簡	196
小結	200
第七章 晉宋交替と仇池政權	205
はじめに	205
第一節 仇池政權と兩晉の関係(前仇池滅亡まで)	206
第二節 仇池政權と兩晉の関係(淝水の戦以後)	211
第三節 楊難當から劉宋文帝への上表文	216
小結	223
終章	235
論文初出一覽	248
参考文献一覽	249

本文

博士論文本文は、五年以内に単行本として出版予定である。

參考文獻一覽

◇典籍類◇

◆典籍類（原書）◆

- 藤原佐世撰『日本國見在書目錄』古典保存會事務所、一九二五年
- 司馬光撰『四部叢刊初編 資治通鑒考異』上海商務印書館、一九三六年
- 二十五史刊行委員會原編『二十五史補編』第三冊中華書局、一九五五年
- 司馬光撰『資治通鑒』中華書局、一九五六年
- 張溥著、殷孟倫注『漢魏六朝百三家集題辭注』人民文學出版社、一九六〇年
- 李昉等撰『太平御覽』中華書局、一九六〇年
- 范曄撰、李賢等注『後漢書』中華書局、一九六五年
- 歐陽詢撰、汪紹楹校『藝文類聚』中華書局、一九六五年
- 森立之撰『經籍訪古志』書目叢編十六廣文書局、一九六七年
- 楊守敬撰『日本訪書志』第四冊書目叢編八廣文書局、一九六七年
- 楊守敬撰『留真譜初編』書目五編十五廣文書局、一九七二年
- 房玄齡等撰『晉書』中華書局、一九七四年
- 李延壽撰『北史』中華書局、一九七四年
- 李延壽撰『南史』中華書局、一九七五年

- 王夫之『讀通鑿論』中華書局、一九七五年
- 陳壽撰『三國志』中華書局、一九八二年
- 杜佑撰『通典』中華書局、一九八四年
- 許嵩撰『建康實錄』中華書局、一九八六年
- 王應麟纂『玉海』江蘇古籍出版社、一九八七年
- 常璩撰、仁乃強校注『華陽國志校補圖注』上海古籍出版社、一九八七年
- 虞世南撰『北堂書鈔』天津古籍出版社、一九八八年
- 楊守敬／熊會貞疏、段熙仲點校、陳橋驛復校『水經注疏』江蘇古籍出版社、一九八九年
- 張溥編『漢魏六朝百三名家集』江蘇廣陵古籍刻印社、一九九〇年
- 晁公武撰、孫猛校證『郡齋讀書志校證』上海古籍出版社、一九九〇年
- 余嘉錫箋『世說新語箋疏（修訂本）』上海古籍出版社、一九九三年
- 趙天瑞編著『劉琨集』天津戶籍出版社、一九九六年
- 劉勰撰、黃叔琳注、李詳補注、楊明照校注拾遺『文心雕龍校注（增訂版）』上·下、中華書局、二〇〇〇年
- 許敬宗編、羅國威整理『日藏弘仁本 文館詞林校證』中華書局、二〇〇一年
- 王鳴盛撰『十七史商榷』鳳凰出版社、二〇〇八年
- 錢大昕撰『廿二史考異 附·三史拾遺 諸史拾遺』上海古籍出版社、二〇〇四年
- 樂史撰、王文楚點校『太平寰宇記』中華書局、二〇〇七年
- 吳士鑿／劉承幹注『晉書斟注』中華書局、二〇〇八年
- 常璩著、劉琳校注『華陽國志新校注』四川大學出版社、二〇一五年

- 魏收撰『魏書（點校本二十四史修訂本）』中華書局，二〇一七年
- 蕭子顯撰『南齊書（點校本二十四史修訂本）』中華書局，二〇一七年
- 沈約撰『宋書（點校本二十四史修訂本）』中華書局，二〇一八年
- ◆典籍類（輯佚書・鈔本殘卷・出土史料）◆
- 傅雲龍『饗喜廬叢書 景日本延喜刊本文選第五殘卷・景唐刊卷子本陶文』一八八九年
- 『文選集注』『京都帝國大學文學部景印舊鈔本』第三、九集，京都帝國大學文學部，一九三五—一九四二年
- 嚴可均校輯『全上古三代秦漢三國六朝文』中華書局，一九五八年
- 神田喜一郎解說『敦煌本文選注』永青文庫，一九六五年
- 王重民『敦煌古籍叙錄』中華書局，一九七九年
- 天理圖書館善本叢書漢籍之部編集委員會編『文選・趙志集・白氏文集』（『天理圖書館善本叢書漢籍之部』第二卷），天理大學出版部，一九八〇年
- 王重民原編、黃永武新編『敦煌古籍敘錄新編』新文豐出版公司，一九八六年
- 湯球／黃奭輯、喬治忠校注『衆家編年體晉史』天津古籍出版社，一九八九年
- 王欽若等編『宋本 冊府元龜』中華書局，一九八九年
- 李均明／何雙全編『散見簡牘合輯』文物出版社，一九九〇年
- 湯球編、楊朝明校補『九家舊晉書輯本』中州古籍出版社，一九九一年
- 岩本憲司『春秋公羊傳何休解詁』汲古書院，一九九三年
- 孟列夫主編、袁席箴／陳華平訳『俄藏敦煌漢文寫卷叙錄』上海古籍出版社，一九九九年
- 饒宗頤編『敦煌吐魯番本文選』中華書局，二〇〇〇年

馬建華主編『河西簡牘』重慶出版社、二〇〇三年

徐堅等編『初學記（第二版）』中華書局、二〇〇四年

羅振玉編纂『鳴沙石室佚書 正續編』北京圖書館出版社、二〇〇四年

韓理洲等輯校編年『全北魏東魏西魏文補遺』三秦出版社、二〇一〇年

五胡の會編『五胡十六國霸史輯佚』燎原、二〇一二年

韓理洲等輯校・編年『全三國兩晉南朝文補遺』三秦出版社、二〇一三年

石塚晴通ほか解題『國寶文選集注卷第四十八・第五十九・第六十八・第八十八・第一百十三』『東洋文庫善本叢書／東洋文庫監修 一二』、勉誠出版、二〇一五年

◆典籍類（日本語訳注）◆

岡田正之ほか『國訳漢文大成 文選』全三冊、東洋文化協會、一九五五～五六年初版は國民文庫刊行會、一九二三～二四年

斯波六郎ほか『世界文學大系 文選』筑摩書房、一九六三年

竹田晃ほか『新釋漢文大系 文選』全八冊明治書院、一九六三～二〇〇一年

小尾郊一ほか『全釋漢文大系 文選』全七冊集英社、一九七四～一九七六年

戸田浩曉『新釋漢文大系 文心雕龍』明治書院、一九七四～一九七八年

目加田誠『新釋漢文大系 世說新語』明治書院、一九七五～一九七八年

中村宗彦『九條本文選古訓集』風間書房、一九八三年

高橋忠彦ほか『中國の古典 文選』上・下巻、學習研究社、一九八五年

◆第四章にて校勘対象とした『文選』諸本◆

(一) 無注本 三十卷

『九條本文選抄』全八冊（私製、一九六二年）

※東山御文庫藏原本卷一～二九（途中に缺本あり）の複製

(二) 李善注本 六十卷

『文選』中華書局、一九七四年

※北京圖書館藏宋淳熙八年尤袤刻本

『文選』附攷異 胡克家仿宋本』藝文印書館、一九五九年（一九五五年初版）

※宋淳熙本重雕鄱陽胡氏藏版の複製

(三) 五臣注本 三十卷

『文選』景印宋本五臣集注』（台湾）國立中央圖書館、一九八一年

※國立中央圖書館藏南宋紹興三一年刊本（景印宋紹興辛巳建陽陳八郎崇化書房刊本）

『文選』正德四年跋朝鮮刊本』

※東京大學東洋文化研究所漢籍善本全文影像資料庫

http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/main_p.php?nu=D7811000&order=m_no&no=01706&im=0190030&pg=1076 ~ 1082

(二〇二〇年七月三十一日最終閲覧)

(四) 六家注本（五臣注＋李善注） 六十卷

『足利學校秘籍叢刊 文選（六臣注文選）』汲古書院、一九七四～一九七五年

※足利學校遺蹟圖書館藏宋紹興中明州刊本の影印

『奎章閣所藏六臣注本文選』 도서출판 다은샘、一九九六年（一九八三年初版）

※ソウル大學校奎章閣藏朝鮮宣德三年「二四二八」卞季良跋活字印本の影印 『六家文選』

※ハーヴァード大學圖書館藏吳郡袁褫嘉趣堂明嘉靖甲午巳酉刊本

Harvard-Yenching Library Chinese Rare Books Digitization Project- Collected Works.

[https://iif.lib.harvard.edu/manifests/view/ds:48222236\\$1153i](https://iif.lib.harvard.edu/manifests/view/ds:48222236$1153i) ~ 1161i (二〇二〇年七月三十一日最終閲覧)

および東京大學総合圖書館藏明嘉靖吳郡袁褫嘉趣堂覆宋廣都裴宅刊本

(五) 六臣注本（李善注＋五臣注） 六十卷

『文選 六十卷（贛州本）』（安平秋・郝平主編『日本宮内庁書陵部藏宋元版漢籍選刊（國外所藏漢籍善本叢刊）』第一五三～一六〇冊、上海古籍出版社、二〇一二年）

◇研究論文・研究書◇

◆日本語論文◆

内田吟風「魏書の成立に就いて」『東洋史研究』二一六、一九三七年

吉川忠夫「抱朴子の世界」上・下、『史林』四七（五）・四七（六）、一九六四年

竹田晃「干寶試論——「晉紀」と「搜神記」の間」『東京支那學報』一一、一九六五年

矢野主税「東晉における南北人對立問題…その政治的考察」『東洋史研究』二六三、一九六七年

前田正名「四世紀の仇池國」『立正大學教養部紀要』一、一九六七年

尾崎康「干寶晉紀考」『斯道文庫論集』八、一九七〇年

- 狩野直禎「干寶とその周邊——江南文化の一考察」『古代學』一八一、一九七二年
- 谷口房男「晉代の氏族楊氏について」『東洋大學文學部紀要 史學科篇』二、一九七六年
- 白須淨眞／萩信雄「高昌墓磚考釋（一）」『書論』一三、一九七八年
- 阿部隆一「中華民國國立故宮博物院藏楊氏觀海堂善本解題」『中國訪書志 增訂版』汲古書院、一九八三年
- 森野繁夫「五臣注文選について」『中國中世文學研究』十七、一九八四年
- 關尾史郎「前涼「升平」始終——『吐魯番出土文書』簡記（二）——」『集刊東洋學』五三、一九八五年
- 阿部隆一「東山御文庫尊藏九條家舊藏舊抄本『文選』について」『慶應義塾大學附屬研究所斯道文庫編『阿部隆一遺稿集』第一卷宋元版篇、汲古書院、一九八五年
- 三崎良章「南北朝の對外政策についての一考察…氏族楊氏集團への冊封を通じて」『史觀』一一四、一九八六年
- 小林聡「慕容政權の支配構造の特質…政治過程の検討と支配層の分析を通して」『九州大學東洋史論集』一六、一九八八年
- 金民壽「東晉政權の成立過程…司馬睿元帝の府僚を中心として」『東洋史研究』四八二、一九八九年
- 小林聡「後漢の少數民族統治に關する一考察」『九州大學東洋史論集』一七、一九八九年
- 熊谷滋三「後漢の異民族統治における官爵授與について」『東方學』八〇、一九九〇年
- 小林聡「漢時代における中國周邊民族の内屬について」『東方學』八二、一九九一年
- 金學主豊福健二訳「韓國古活字本『文選』の研究」『武庫川國文』四一、一九九三年
- 金學主豊福健二訳「李朝刊『五臣注文選』について」『中國中世文學研究』二四號、一九九三年
- 熊谷滋三「前漢における屬國制の形成…「五屬國」の問題を中心として」『史觀』一三四、一九九六年
- 熊谷滋三「前漢における「蠻夷降者」と「歸義蠻夷」」『東洋文化研究所紀要』一三四、一九九七年
- 小南一郎「干寶「搜神記」の編纂上」『東方學報』六九、一九九七年

- 小南一郎「干寶『搜神記』の編纂下」『東方學報』七〇、一九九八年
- 宮岸雄介「魏晉の史學思想——孫盛・干寶を中心に」『富士大學紀要』三一、一九九八年
- 高西成介「六朝文人傳——『晉書』卷八十二干寶傳」『中國中世文學研究』三三、一九九八年
- 阿部幸信「漢代における印綬賜與に關する一考察」『史學雜誌』一〇七—一〇、一九九八年
- 佐竹保子「九條本『文選』の識語の検討」『東北大學中國語學文學論集』四、一九九九年
- 山口洋「西晉愍帝時期の政局と雍州・秦州の動向」『中央大學アジア史研究』二四、二〇〇〇年
- 鈴木桂「唐修『晉書』にみえる唐初の正統觀…五胡十六國の稱元法の検討から」『史料批判研究』五、二〇〇〇年
- 小林聡「西晉における禮制秩序の構築とその變質」『九州大學東洋史論集』三〇、二〇〇二年
- 竹崎卓夫「晉朝における封爵繼紹」『東北大學東洋史論集』九、二〇〇三年
- 梶山智史「大趙神平²年「王真保墓誌」について…十六國北朝時期における「匈奴」の一側面」『駿台史學』一一九、二〇〇三年
- 阿部幸信「漢帝國の内臣—外臣構造形成過程に關する一試論——主に印綬制度よりみたる——」『歴史學研究』七八四、二〇〇四年
- 岩本篤志「敦煌・吐魯番發見「晉史」写本殘卷考——『晉陽秋』と唐修『晉書』との關係を中心に」『西北出土文獻研究』二、二〇〇五年
- 佐川英治「東魏北齊革命と『魏書』の編纂」『東洋史研究』六四—一、二〇〇五年
- 梶山智史「崔鴻『十六國春秋』の成立について」『明大アジア史論集』一〇、二〇〇五年
- 三田辰彦「東晉の琅邪王と皇位繼承」『集刊東洋學』九六、二〇〇六年
- 田中靖彦「初期東晉における孫吳觀——干寶『搜神記』を中心に」『六朝學術學會報』七、二〇〇六年
- 岡村繁「重修北宋國子監本『李善注文選』序説」『立命館文學』五九八、二〇〇七年
- 佐藤賢「もうひとつの漢魏交替——北魏道武帝期における「魏」號制定問題をめぐって」『東方學』一一三輯、二〇〇七年
- 大淵貴之「避諱による當代類書の部立て改心について——『藝文類聚』における改字を中心に——」『九州中國學會報』第四六卷九州中國學會、

二〇〇八年

阿部幸信「前漢時代における内外觀の變遷——印制の視点から——」『中國史學』一八、二〇〇八年

阿部幸信「漢初「郡國制」再考」『日本秦漢史學會會報』九、二〇〇八年

新田元規「君主繼承の禮學的説明」『中國哲學研究』二三、二〇〇八年

陳狃「『集注文選』の成立過程について…平安の史料を手掛かりとして」『中國文學論集』三八、二〇〇九年

谷川道雄「中國古典時代の終結と東アジア世界の成立」『河合文化教育研究所』研究論集』七、二〇〇九年

北村一仁「南北朝政權の邊境統治に關する一考察…仇池地區を例として」『河合文化教育研究所』研究論集』七、二〇〇九年

池淵質實「九條本『文選』研究序説」『中國學研究論集』六、二〇一〇年

梶山智史「屠本『十六國春秋』考——明代における五胡十六國史研究の一斑」『史學雜誌』一一九—七、二〇一〇年

大瀨貴之「『藝文類聚』編纂考」『日本中國學會報』六二、二〇一〇年

吉本道雅「魏書序紀考證」『史林』九三—三、二〇一〇年

大瀨貴之「『初學記』による『藝文類聚』補綴について」『中國文學論集』四〇、二〇一一年

大久保秀造「東晉元帝の勸進の新研究」『大正大學大學院研究論集』三五、二〇一一年

關尾史郎「敦煌新出鎮墓瓶初探…中國西北地域出土鎮墓文集成(稿)」補遺(續)『西北出土文獻研究』九、西北出土文獻研究會、二〇一一年

逆瀬川彰子「『文選集注』江淹「雜體詩」訳註三 劉太尉傷亂琨」『筑波中國文化論叢』三一、二〇一二年

阿部幸信「漢初における諸侯王と禮・法」『中央大學アジア史研究』三六、二〇一二年

白須淨眞「晉の(建)興五(三二七)年、故酒泉表是都郷仁業里・大女・夏侯妙々の衣物疏…古陶文明博物館(北京)所藏・新資料の紹介」『廣島東

洋史學報』一八、二〇一三年

小野響「前趙と後趙の成立…五胡十六國時代における匈奴漢崩壞後の政治史的展開」『立命館東洋史學』三六、二〇一三年

- 磯部彰「袁髮做宋刊六家文選系の版本一種」『東アジア典籍文化研究』塙書房、二〇一三年
- 町田隆吉「河西出土魏晉・五胡十六國時代漢語文獻の基礎的整理 補遺(一)」『西北出土文獻研究』一一、西北出土文獻研究會、二〇一三年
- 白須淨眞「前涼・張駿の行政區畫改編と涼州・建康郡の設置」改編年次に係わる司馬光の見解と考古資料による新見解『敦煌写本研究年報』八、二〇一四年
- 小谷仲男・菅沼愛語「南北朝正史の沮渠蒙遜傳、氐胡傳、宕昌傳詠注」『京都女子大學大學院文學研究科研究紀要 史學編』十三、二〇一四年
- 小野響「後趙における君主と軍事力」石虎即位以前を中心として『立命館史學』三五、二〇一四年
- 岡部毅史「西晉皇太弟初探」『東方學』一二九、二〇一五年
- 小池直子「西晉武帝と伯父・司馬師」『九州大學東洋史論集』四三、二〇一五年
- 小野響「石虎即位以後における後趙の政變に關する一考察」君主位に對する理解を中心に『東洋史苑』八四、二〇一五年
- 田中一輝「代北と中原」北朝の史學と正統觀『東洋史研究』七五―三、二〇一六年
- 小野響「前秦苻堅政權論序説」『集刊東洋學』一一四、二〇一六年
- 小野響「前秦崩壞と華北動亂」淝水の戦い前後における關西と關東『立命館東洋史學』三九、二〇一六年
- 小野響「前燕國家體制考」慕容儁稱帝以後を中心として『史滴』三九、二〇一七年
- 岡田和一郎「北朝國家のイデオロギー」漢魏の故事を手がかりとして『唐宋變革研究通訊』九、二〇一八年
- 小野響「後趙建國前夜」匈奴漢國家體制試論『立命館東洋史學』四一、二〇一八年
- 小野響「後趙王權考」五胡十六國時代における王權の様相の一例『立命館史學』三九、二〇一八年
- 小野響「石勒十八騎考」後趙政權の基礎的理解に向けて『立命館文學』六五七、二〇一八年
- 梶山智史「霸史の系譜」五胡十六國史料における繼承と再編『唐代史研究』二二、二〇一九年
- 岡田和一郎「可汗の論理」『唐宋變革研究通訊』第一〇輯、二〇一九年

小野響 「君子營考・後趙における漢族士人の動向」『東洋史苑』九一、二〇一九年

小野響 「後趙國家體制考・五胡十六國時代における胡漢社會と大單于の一形態」『古代文化』七一―二、二〇一九年

◆日本語書籍◆

岡崎文夫 『魏晉南北朝通史 内編』弘文堂書房、一九三二年

岡崎文夫 『南北朝に於ける社會經濟制度』弘文堂書房、一九三五年

宮崎市定 『東洋史研究叢刊一 九品官人法の研究——科擧前史』東洋史研究會、一九五六年

宮川尚志 『六朝史研究 政治・社會篇』日本學術振興會、一九五六年

松田壽男 『古代天山の歴史地理學的研究』早稲田大學出版部、一九五六年（増補版は一九七〇年）

小長谷惠吉 『日本國見在書目錄解説稿 附・同書目錄、同書索引』小宮山出版、一九五六年

斯波六郎 『文選諸本の研究』斯波博士退官記念事業會、一九五七年

斯波六郎編 『唐代研究のしおり 特集第三・第四 文選索引第三冊・附録』京都大學人文科學研究所索引編集委員會、一九五九年

栗原朋信 『秦漢史の研究』吉川弘文館、一九六〇年

越智重明 『晉書』明德出版社、一九七〇年

内田吟風 『東洋史研究叢刊二八一 北アジア史研究 鮮卑柔然突厥篇』同朋舎、一九七五年

栗原朋信 『上代日本對外關係の研究』吉川弘文館、一九七八年

唐代史研究會編 『東アジア文化圏の成立をめぐって』唐代史研究會、一九七八年

坂元義種 『古代東アジアの日本と朝鮮』吉川弘文館、一九七八年

坂元義種 『百濟史の研究』塙書房、一九七八年

- 尾形勇『中國古代の「家」と國家』岩波書店、一九七九年
- 唐代史研究会編『隋唐帝國と東アジア世界』汲古書院、一九七九年
- 榎一雄責任編集『講座敦煌二 敦煌の歴史』大東出版社、一九八〇年
- 越智重明『魏晉南朝の貴族制』研文出版、一九八二年
- 川勝義雄『六朝貴族制社會の研究』岩波書店、一九八二年
- 西嶋定生『中國古代國家と東アジア世界』東京大學出版會、一九八三年
- 陳國慶著、沢谷昭次訳『漢籍版本入門』研文出版、一九八四年
- 越智重明『魏晉南朝の人と社會』研文出版、一九八五年
- 田村實造『中國史上の民族移動期——五胡・北魏時代の政治と社會——』創文社、一九八五年
- 大川富士夫『六朝江南の豪族社會』雄山閣、一九八七年
- 中村圭爾『六朝貴族制研究』風間書房、一九八七年
- 工藤元男『睡虎地秦簡よりみた秦代の國家と社會』創文社、一九八八年
- 堀敏一『中國と古代東アジア世界——中華的世界と諸民族』岩波書店、一九九三年
- 興膳宏／川合康三『隋書經籍志詳攷』汲古書院、一九九五年
- 川本芳昭『魏晉南北朝時代の民族問題』汲古書院、一九九八年
- 興膳宏／川合康三『隋書經籍志詳攷』汲古書院、一九九五年
- 福原啓郎『西晉の武帝司馬炎』白帝社、一九九五年
- 富永一登『文選李善注の研究』研文出版、一九九九年
- 岡村繁『文選の研究』岩波書店、一九九九年

- 論集編集委員會編『論集 中國古代の文字と文化』汲古書院、一九九九年
- 磯部彰『朝鮮版『文選』の総合的研究』二〇〇一年科學研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書
- 小尾孟夫『六朝都督制研究』溪水社、二〇〇一年
- 金子修一『汲古選書二六 古代中國と皇帝祭祀』汲古書院、二〇〇一年
- 池田温編『日中律令制の諸相』東方書店、二〇〇二年
- 窪添慶文『魏晉南北朝官僚制研究』汲古書院、二〇〇三年
- 渡邊信一郎『中國古代の王權と天下秩序——日中比較史の視点から』校倉書房、二〇〇三年
- 關尾史郎編『新潟大學代域プロジェクト研究資料叢刊』中國西北地域出土鎮墓文集成(稿)』二〇〇五年
- 田中良之／川本芳昭編『東アジア古代國家論——プロセス・モデル・アイデンティティ——』すいれん舎、二〇〇六年
- 堀敏一『東アジア世界の形成——中國と周邊國家』汲古書院、二〇〇六年
- 三崎良章『五胡十六國の基礎的研究』汲古書院、二〇〇六年
- 金子修一『中國古代皇帝祭祀の研究』岩波書店、二〇〇六年
- 中村圭爾『六朝江南地域史研究』汲古書院、二〇〇六年
- 渡邊義浩編『兩漢における詩と三傳』汲古書院、二〇〇七年
- 松下憲一『北魏胡族體制論』北海道大學大學院文學研究科、二〇〇七年
- 渡邊義浩『西晉「儒教國家」と貴族制』汲古書院、二〇一〇年
- 福原啓郎『魏晉政治社會史研究』京都大學學術出版會、二〇一二年
- 三崎良章『五胡十六國…中國史上の民族大移動(新訂版)』東方書店、二〇一二年
- 磯部彰『東アジア典籍文化研究』塙書房、二〇一三年

- 中村圭爾『六朝政治社會史研究』汲古書院、二〇一三年
- 渡邊義浩編『中國新出資料學の展開 第四回日中學者中國古代史論壇論文集』汲古書院、二〇一三年
- 大橋由治『『搜神記』研究』明德出版社、二〇一四年
- 福井佳夫『六朝文体論』汲古書院、二〇一四年
- 川合安著『南朝貴族制研究』汲古書院、二〇一五年
- 川本芳昭『東アジア古代における諸民族と國家』汲古書院、二〇一五年
- 戸川貴行『東晉南朝における傳統の創造』汲古書院、二〇一五年
- 渡邊義浩『『古典中國』における文學と儒教』汲古書院、二〇一五年
- 大阪市立大學大學院文學研究科東洋史學專修研究室編『中國都市論への挑動』汲古書院、二〇一六年
- 岡部毅史『魏晉南北朝官人身分制研究』汲古書院、二〇一七年
- 窪添慶文『墓誌を用いた北魏史研究』汲古書院、二〇一七年
- 窪添慶文編『アジア遊學二一三 魏晉南北朝史のいま』勉誠出版、二〇一七年
- 田中一輝『西晉時代の都城と政治』朋友書店、二〇一七年
- 谷川道雄『谷川道雄中國史論集』上卷、汲古書院、二〇一七年
- 藤田勝久／關尾史郎編『簡牘が描く中国古代の政治と社会』汲古書院、二〇一七年
- 渡邊義浩『『古典中國』における小説と儒教』汲古書院、二〇一七年
- 栗山雅史『西晉朝辭賦文學研究』汲古書院、二〇一八年
- 堀内淳一『北朝社會における南朝文化の受容…外交使節と亡命者の影響』東方書店、二〇一八年
- 牧角悦子『經國と文章…漢魏六朝文學論』汲古書院、二〇一八年

- 南川高志編著『歴史の轉換期二 三七八年・失われた古代帝國の秩序』山川出版社、二〇一八年
- 田余慶著／田中一輝・王鏗訳『北魏道武帝の憂鬱・皇后・外戚・部族』京都大學學術出版會、二〇一八年
- 金子修一『古代東アジア世界史論考——改訂増補 隋唐の國際秩序と東アジア——』八木書店、二〇一九年
- 河上麻由子『古代日中關係史・倭の五王から遣唐使以降まで』中央公論新社、二〇一九年
- 關尾史郎／町田隆吉編『磚畫・壁畫からみた魏晉時代の河西』汲古書院、二〇一九年
- 渡邊義浩『「古典中國」の形成と王莽』汲古書院、二〇一九年
- 福井佳夫『六朝書翰文の研究』汲古書院、二〇二〇年

◆中國語論文◆

- 劉文興「北宋本李善注文選校記」『國立北平圖書館館刊』五卷五號、一九三一年
- 李廷先「談劉琨及其『勸進表』」『徐州師範學院學報』一九七八年三期
- 侯燦「前涼年號新考辨」『新疆社會科學』一九八二年二期
- 武守志「五涼政權與中原江左政權的關係」『蘭州教育學院學報』一九八五年第三期
- 饒宗頤「敦煌與吐魯番寫本孫盛晉春秋及其「傳之外國」考」『漢學研究』第四卷第二期、一九八六年
- 劉偉航「司馬睿對祖逖北伐態度之我見」『許昌學院學報』一九八八年第二期
- 徐日輝「後仇池國述論」『甘肅社會科學』一九八八年第三期
- 王大良「前涼與晉的關係研究」『南都學壇』一九八九年第二期
- 鄭炳林「仇池國二十部護軍鎮考」『西北民族研究』一九九一年第二期
- 何德章「北魏國號與正統問題」『歷史研究』一九九二年第三期

- 廖幼華 「晉末太原劉琨敗亡之基本形勢分析」『國立中正大學學報』一九九四年第一〇期
- 張月雲 「宋刊文選李善單注本考」『故宮學術季刊』第二卷第四期、一九八五年夏號
- 池培善 「慕容廆在位時前燕和東晉的關係」『六朝文化國際學術研討會暨中國魏晉南北朝史學會第六屆年會論文集』一九八八年
- 梁建徽 「劉琨死因考略」『南平師專學報社會科學版』一九九四年第二期
- 何德章 「鮮卑代國的成長與拓跋鮮卑初期漢化」(『武漢大學學報(人文科學版)』二〇〇一年第一期)
- 李椿浩 「十六國時期的“勤王”及其政治功能」『晉陽學刊』二〇〇一年第一期
- 董慧秀 「劉琨之死記疑」『魏晉南北朝隋唐史資料』第一九輯、二〇〇二年
- 董慧秀 「劉琨·盧謏贈答詩始末推論」『魏晉南北朝隋唐史資料』二〇〇三年
- 劉瑞 「秦·西漢的“內臣”與“外臣”」『民族研究』二〇〇三年第三期
- 吳平／張智主編 『中國祠墓志叢刊二』「唐王涇撰 大唐郊祀錄／「明萬斯同著 廟制圖考」廣陵書社、二〇〇四年
- 錢杭 「中國古代的世系與譜法——兼與日本相關制度的比較」『東北アジア研究』一〇、二〇〇六年
- 仇鹿鳴 「僑郡改置與前燕政權中的胡漢關係」『中國歷史地理論叢』二十二卷四輯、二〇〇七年
- 李方 「試論唐朝的“中國”與“天下”」『中國邊疆史地研究』二〇〇七年第二期田余慶「關於拓跋猗盧殘碑及題記二則——兼釋殘碑出土地點之疑」
- 『中華文史論叢』二〇〇八年一期
- 范兆飛 「永嘉亂後的并州局勢——以劉琨刺并為中心」『學術月刊』二〇〇八年三期
- 龐咏華 「『晉書 劉琨傳』札記——關於劉琨史實的幾點考察」『滄桑』二〇〇八年五期
- 朱曉海 「『文選』中勸進文、加九錫文研究」『清華學報』三八卷三期、二〇〇八年九月
- 高明士 「天下秩序與「天下法」——以隋唐的東北亞關係為例」『法制史研究』第一四期、二〇〇八年
- 董慧秀 「司馬氏宗王鬪爭的延續與兩晉政權的交替」『雲南農業大學學報社會科學版』二〇一〇年四期

- 莊金秋「略論段部鮮卑與兩晉的關係」『東北史地』二〇一〇年九期
- 王裕昌「甘肅省博物館所藏三方魏晉金印考述」『中國文物報』二〇一一年六月一日
- 范兆飛「兩晉之際的士族生態與幽冀形勢」『學術月刊』二〇一一年三期
- 牟發松「天下論——以天下的社會涵義為中心」『江漢論壇』二〇一一年第六期
- 李永生「釋“立功鄉里”——西晉愍帝政權研究之一」『珞珈史苑』二〇一一年卷
- 郭寶軍「從抄本到刻本的清整——北宋國子監本《文選》研究之一」『長春師範學院學報』二〇一二年一期
- 徐華「俄藏敦煌寫卷 0242 號《文選》考異——兼論寫卷的版本系統及作注年代」『敦煌研究』二〇一二年二期
- 武志佳「從劉琨經歷和詩歌看劉琨悲劇」『南華大學學報社會科學版』二〇一二年三期
- 許紀霖「天下主義／夷夏之辨及其在近代的變異」『華東師範大學學報社會科學版』二〇一二年第六期
- 倪潤安「北京石景山八角村魏晉墓的年代及墓主問題」『故宮博物院院刊』二〇一二年第三期總第一六一期
- 汪習波「栖遲在王權的罅隙里——『文選』的“河北問題”及其名教敘述」『史林』二〇一四年二期
- 魏俊傑「論鮮卑段部的源流和興衰」(『北華大學學報社會科學版』)二〇一四年第三期
- 張士偉「論後仇池國與劉宋—北魏的三角關係」『重慶三峽學院學報』二〇一四年第五期
- 李磊「百濟的天下意識與東晉南朝的天下秩序」『華東師範大學學報(哲學社會科學版)』二〇一四年第二期
- 王逸之／王興鋒「前涼與兩晉關係及國祚問題探析」『西安文理學院學報(社會科學版)』二〇一四年第三期
- 李磊「天下的另一種形態——東晉及東北族群政權建構中的天下意識探析」『華東師範大學學報哲學社會科學版』二〇一四年第五期
- 劉昕「『昭明文選』諸版本概梳」『佳木斯職業學院學報』二〇一五年第八期
- 劉鋒「抄本時代『文選』的流傳與校讎——兼論兩部早期“文選學”專著」『天中學刊』二〇一六年第五期
- 張順兵「五胡十六國早期銘石書對魏楷的影響……以後趙故都邢台『晉政殘碑』為例」『中國書法』二〇一八年第四期總三二四期

- 郭碩「拓跋氏與魏晉政權的早期關係…兼論拓跋早期民族交往史料的辨析問題」《烟台大學學報(哲學社會科學版)》二〇一八年六期
- 高然／劉兵兵「西北政局中的後仇池國初探」《西華師範大學學報(哲學社會科學版)》二〇一八年第六期
- 高然／劉兵兵「仇池國史研究述評」《西北民族論叢》二〇一八年第一七輯

◆中國語書籍◆

- 呂思勉『兩晉南北朝史』上册·下册、開明書店、一九四八年
- 唐長孺『魏晉南北朝史論叢』正編·續編、生活·讀書·新知三聯書店、一九五五年—一九五九年
- 余嘉錫『四庫提要辨證』科學出版社、一九五八年
- 陳垣編『二十史朔閏表 附西曆回曆』中華書局、一九六二年
- 馬長壽『北狄與匈奴』生活·讀書·新知三聯書店、一九六二年
- 嚴耕望『魏晉南北朝地方行政制度』中央研究院歷史語言研究所、一九六三年
- 饒宗頤『中國史學上之正統論·中國史學觀念探討之一』龍門書店、一九七七年
- 唐長孺『魏晉南北朝史論拾遺』中華書局、一九八三年
- 馬長壽『氏與羌』上海人民出版社、一九八四年
- 李祖桓編著『仇池國志』書目文獻出版社、一九八六年
- 黃烈『中國古代民族史研究』人民出版社、一九八七年
- 北京圖書館編『北京圖書館古籍善本書目』書目文獻出版社、一九八七年序
- 康樂『從西郊到南郊·國家祭典與北魏政治』稻禾出版社、一九九五年
- 閻步克『士大夫政治演生史稿』北京大學出版社、一九九六年

- 趙向群『五涼史探』甘肅人民出版社、一九九六年
- 陳寅恪撰、唐振常導讀『唐代政治史述論稿』上海古籍出版社、一九九七年（初出是一九四二年）
- 饒宗頤主編、王素／李方著『魏晉南北朝敦煌文獻編年』新文豐出版公司、一九九七年
- 王素『吐魯番出土高昌文獻編年』新文豐出版、一九九七年
- 黃清連編『結網篇』東大圖書、一九九八年
- 王素『高昌史稿 統治編』第三章第一節、文物出版社、一九九八年
- 傅剛『文選版本研究』北京大學出版社、二〇〇〇年
- 陳寅恪著、陳美延編『陳寅恪集 金明館叢稿初編』生活·讀書·新知三聯書店、二〇〇一年
- 遼耀東『從平城到洛陽·拓跋魏文化轉變的歷程』東大圖書、二〇〇一年
- 閻步克『品位與職位·秦漢魏晉南北朝官階制度研究』中華書局、二〇〇二年
- 田余慶『拓跋史探 修訂本』生活·讀書·新知三聯書店、二〇〇三年
- 張繼昊『從拓跋到北魏·北魏王朝創建歷史的考察 初版』稻鄉出版社、二〇〇三年
- 范志新『文選版本論稿』江西人民出版社、二〇〇三年
- 高明士『東亞古代的政治與教育』國立臺灣大學出版中心、二〇〇四年
- 張勳燎／白彬『中國道教考古』第二冊、線裝書局、二〇〇六年
- 馬長壽『烏桓與鮮卑』廣西師範大學出版社、二〇〇六年
- 郭善兵『中國古代帝王宗廟禮制研究』人民出版社、二〇〇七年
- 甘懷真編『東亞歷史上的天下與中國概念』台灣大學出版中心、二〇〇七年
- 周一良『魏晉南北朝史札記 第二版』中華書局、二〇〇七年

- 周偉洲『中國中世西北民族關係研究』廣西師範大學出版社、二〇〇七年
- 余嘉錫『余嘉錫著作集 四庫提要辨證 第二版』中華書局、二〇〇七年
- 胡阿祥『東晉南朝僑州郡縣與僑流人口研究』江蘇教育出版社、二〇〇八年
- 唐長孺『魏晉南北朝史論叢』中華書局、二〇〇九年（初版は生活・讀書・新知三聯書店、一九五五年）
- 田余慶『東晉門閥政治 第四版』北京大學出版社、二〇〇九年（一九八九年初版）
- 趙立新『古代歷史文化研究輯刊初編七 西晉末年至東晉時期的「分陝」政治—分權化現象下的朝廷與州鎮』花木蘭文化出版社、二〇〇九年
- 徐興慶主編『東亞文化交流與經典詮釋』臺大出版中心、二〇〇九年
- 陳勇『資治通鑒』十六國資料釋證：漢趙·後趙·前燕國部分』中國社會科學出版社、二〇一〇年
- 何德章『魏晉南北朝史叢稿』商務印書館、二〇一〇年
- 胡阿祥『魏晉南北朝史十五講』鳳凰出版社、二〇一〇年
- 周一良『魏晉南北朝史論集 第二版』北京大學出版社、二〇一〇年（初版は中華書局、一九六三年）
- 高明士『律令法與天下法』五南圖書出版、二〇一二年
- 徐冲『中古時代的歷史書寫與皇帝權力起源』上海古籍出版社、二〇一二年
- 中共高臺縣委等編『高臺魏晉墓與河西歷史文化研究』甘肅教育出版社、二〇一二年
- 王安泰『再造封建 魏晉南北朝的爵制與政治秩序』台灣大學出版中心、二〇一三年
- 周振鶴主編、胡阿祥／孔祥軍／徐成著『中國行政區畫通史 三國兩晉南朝卷』復旦大學出版社、二〇一四年
- 童嶺主編、孫英剛·王安泰·小尾孝夫副主編『皇帝·單于·士人：中古中國與周邊世界』中西書局、二〇一四年
- 仇鹿鳴『魏晉之際的政治權力與家族網絡』上海古籍出版社、二〇一五年
- 孫猛『日本國見在書目錄詳考』上海古籍出版社、二〇一五年

周振鶴主編、牟發松／毋有江／魏俊傑著『中國行政區畫通史 十六國北朝卷』復旦大學出版社、二〇一六年
賈小軍／武鑫『魏晉十六國河西鎮墓文·墓券整理研究』中國社會科學出版社、二〇一七年
魏俊傑『十六國疆域與政區研究』復旦大學出版社、二〇一八年
魏斌『《山中》的六朝史 北京第一版』生活·讀書·新知三聯書店、二〇一九年

◆英語論文·研究書◆

Chavannes, Edouard ed. *Les documents chinois: découverts par Aurel Stein dans les sables du Turkestan oriental*. Oxford: Imprimerie de l'Université, 1913.

Fairbank, John King. "A Preliminary Framework." *The Chinese world order: traditional China's foreign relations*. edited by John King Fairbank; with contributions by Ta-tuan Ch'en [et al.] Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 1968.

Xiao, Tong. Translated, with Annotations and Introduction by David R. Knechtges, *Wen Xuan or Selections of Refined Literature: Rhapsodies on Metropoles and Capitals*, Volume I- III, Princeton, N.J.: Princeton University Press, 1982.

Knechtges, David R. "Han and Six Dynasties Parallel Prose." *Renditions: a Chinese- English translation magazine / Research Centre for Translation*, the Chinese University of Hong Kong. W. W. Norton & Co., 1990.

Knechtges, David R. "Liu Kun, Lu Chen, and Their Writings in the Transition to the Eastern Jin." *Chinese Literature: Essays, Articles, Reviews CLEAR*, Vol. 28 Dec., 2006.

Wilkinson, Endymion. *Chinese History: A New Manual*, Fifth Edition, Cambridge, Mass.: Harvard University Press, 2018.

論文の内容の要旨

論文題目： 「兩晉十六國時代の「正統」と「周縁」

氏名： 板橋暁子

本博士論文は、中國史上の大分裂時代とも稱される魏晉南北朝時代、そのなかでもとりわけ分裂状態が深刻化した兩晉十六國時代における正統観を、主に王朝と藩屏の關係に對する考察を通じて明らかにしようと試みたものである。他の時代に比べてこの時代に顯著にみられる特徴として、國力や實効支配領域からいえば周縁的存在に過ぎない王朝が正統を主張して藩屏との關係構築を模索したり、正統を唱える當事者ではない周縁的存在である藩屏が特定の王朝の正統性を承認する側に立ったり、さらには藩屏が藩屏の地位を脱して自らを正統と位置づけるに至ったりといった、流動的かつ複層的な稱藩關係を擧げることができる。本博士論文の題目を「兩晉十六國時代の「正統」と「周縁」と設定したのは、そのように、兩晉十六國時代にあっては「周縁」は必ずしも「正統」から斷絶した存在、「正統」の下位に立つ存在ではなく、両者はしばしば補い合い重なり合う關係にあり、そのことがこの時代を特色づけると考えられるためである。

各章の概要は以下のとおりである。

第一章では、西晉最末期、長安に成立した愍帝政權が司馬睿ら各地の藩屏とどのような關係を構築したか、そして愍帝政權に對し藩屏側はどのような動きを示したかを検討した。愍

帝の在位期間はごく短いながら、各地の藩屏に對し現實的な影響を一定程度及ぼし、長安を中心とする天下經營構想のなかに彼らを組み込んでいた。すなわち、實際の統治領域からすれば極めて局地的であった愍帝政權も、統一期の西晉舊領＝「天下」を繼承する王朝であると自ら任じていた。實効支配が及ばない各地の親晉勢力に對し、洛陽奪還を標榜することで軍事的統合を呼びかけると同時に、たえず官爵を授けながら「天下」の輪郭の保持を試みる、という愍帝政權の基本姿勢は、建康を中心とする東晉「册封體制」の原型として繼承された。

第二章では、西晉舊領最西端に成立した前涼政權が、東晉に稱藩した後も約半世紀にわたり西晉愍帝の年號「建興」を奉用しつづけた現象について考察した。西晉朝廷が長安に遷った愍帝期、前涼（初代張軌・第二代張寔）は長安防衛のためにたびたび出兵し、諸藩屏の中でも最も忠實な藩屏として「勤王」の實績を築いた。この時期、張氏の前涼政權と司馬睿の建康政權は遠隔地から愍帝に稱臣し、その「天下」構想を支える藩屏という點で、立場を同じくしていた。江南における司馬睿の即位に前涼（第二代張寔）は賛同したが、年號は「建興」の奉用を繼續した。東晉成立の約二十年後、前涼（第四代張駿）から東晉（第三代成帝）への上表文には、司馬睿の琅邪王時代から採られてきた「勤王」不履行＝自勢力の温存政策が、東晉成立以後も基本方針として繼承されてきたことへの不服が見いだされる。前涼における「建興」奉用の繼續は、琅邪王司馬睿の「勤王」不履行ならびに東晉成立後の北伐不履行への批判的立場から、愍帝期の西晉朝廷秩序を顯示する意味があったと考えられる。

第三章では、西晉末期、拓跋部の首長猗廬に對しておこなわれた代王册封およびそれに先立つ代公册封について考察した。「異姓不王」の禁に反する「異姓封王」がこのとき斷行された背景には、拓跋部を親晉勢力として確保することで并州一帯は維持したいという西晉朝廷の思惑があったとみられる。他方、西晉・東晉朝廷から郡公に封じられた段部・慕容部・仇池楊氏の首長らは晉制官職も授かったのに對し、拓跋部首長が授かったのは爵位（と單于位）のみであった。また、八王の亂終息時に建てられた大邗城南碑や劉琨の文章には、拓跋部は「外域」であるという晉人側の認識が一貫して示されている。これらの點をふまえて代王册封の背景を再検討するならば、晉朝は拓跋部首長を外臣に留めおくことで、晉室の窮地を救う「外域」の功勞者に對して破格の待遇で報いるとともに、本土介入する権限をもたないように仕向けたと解釋できる。

第四章では、兩晉交替期、劉琨が司馬睿に勸進をおこなった背景と彼の「勸進表」四首を検討した。劉琨が「勸進表」において「華戎による推戴」を一貫して唱え、「戎」が東晉の發足當初から中國王朝内部の構成員として位置づけられたことは、西晉惠帝期の江統が『徙

戎論』中で主張した華夷の分断／峻別の思想とはきわめて対照的であった。劉琨の勸進の経緯に鑑みるに、反晋勢力に對峙して華北を統合するためには非漢人をも皇帝推戴に參與させ、一定程度對等な地位・權利を與えなくてはならないという認識が漢人の側に存在していたとみられる。中國王朝の中心性／一體性を回復するため、中國の帝王をともに支える構成員として非漢人を位置づけたということであり、一種の等視化、内部化であった。

第五章では、東晋が王敦の亂と蘇峻の亂を経た後の時期、慕容部の首長慕容廆とその屬僚が長江中流域に出鎮する東晋の高官陶侃に宛てた書簡と陶侃の反應を分析した。慕容廆とその屬僚がそれぞれ陶侃に宛てた書簡は、江南から隔絶した東北部に割據する慕容部を東晋からみて「意外」であると位置づけた上で、東晋の忠實な藩屏たる慕容廆を燕王に封じることの正當性を訴えるものである。燕王册封を請願する宛先として陶侃が選ばれたのは、彼が南人であるがゆえに、本來は東晋の「内」である東北部にも「異姓封王」を容認すると期待されたため、と推測される。陶侃が返信において示した折衷的對應は、慕容部君臣が期待した「非『北人』としての天下觀」に通じる、非公式的・反傳統的な性格のものであった。

第六章では、東晋中期、慕容廆の跡を繼いだ慕容皝が建康の東晋朝廷に對しておこなった燕王册封運動の経緯を検討した。慕容皝が建康へ派遣した使者劉翔は東晋朝廷において、「異姓封王」に難色を示す朝臣らに對し、慕容皝こそ夷狄でありながら中華の傳統の護持者であると主張した。劉翔の訪晋期間中、慕容皝は成帝への上表文と庾冰への書簡を建康へ送り、ついに燕王册封の實現に成功した。慕容皝は庾冰への書簡において、自身が夷狄出身であると認めつつ、政情不安を招いてきた外戚庾氏よりも中華王朝＝晋朝の忠臣としての實績に富むことを強調したのであった。従來の研究では、前涼の封王をめぐる問答に基づき、「戎狄ならば王に封じてよい」という論理にもとづく措置が慕容皝に適用されていたかのように捉えられていたが、實際には慕容皝の封王請願も大きな抵抗に遭っており、「華」「夷」の別は「内」「外」の別を無効にするものではなかった。

第七章では、氏族の楊氏が代々運営した前仇池・後仇池政權と兩晋および劉宋との稱藩關係を軸として、江南王朝の藩屏として華北に存続しつづけた仇池政權の歴史的意義を問い直した。仇池方面は晋朝遺民の繼續的な受け皿となるとともに、仇池楊氏もまた、民心收攬のために晋朝藩屏という立場を自覺的に維持し、華北勢力としては唯一、西晋初から東晋末まで晋朝藩屏としての地位を全うした。支配氏族が交代しつづける領域も再編成されつづけた南と北の諸王朝のはざまにあって、晋朝の藩屏そして遺民の結集點という安定的な役割を果たしつづけたこと、かつ、晋朝とのそのような關係を、晋宋交替直後の劉宋との關係に

も適用し劉宋を正統王朝として奉じたことに、他の五胡十六國政權とは一線を畫す仇池政權の特色をみることができる。

以上の議論をふまえ、本博士論文全体の結論を以下のようにまとめたい。

(一)「内」「外」觀の保持

西晉末期～晉宋交替までの約百年を通じて、晉朝は實態として長安および（その時期の中國では未だ「周縁」的地域であった）江南に逼塞する地方政權の地位に甘んじ、とくに東晉は特定の時期を除き北伐に消極的な基本方針を維持しつづけた。その一方で、長安の愍帝政權も江南の東晉も、全土統一期の西晉と同様に自らを中國唯一の正統王朝と位置づけることに変わりはなく、統一期の西晉舊領全域を自身の「内」として規定しつづけた。統一王朝期と地方政權期を相次いで経験したことが、晉朝自身の正統觀を規定し固定化したものと考えられる。

(二)「勤王」意識の持續

西晉末期～晉宋交替までの約百年を通じて、晉朝は西晉舊領各地の藩屏に對して一定の威信と求心力を失わなかった。晉朝は各地の藩屏に對する正朔や官爵の授受を通じて、あるいは「勤王」の名のもとに協調的軍事行動を呼びかけることで、あるいは藩屏の要望に對し一定の讓歩を示すことで、緩やかな統合を維持していた。上記（一）のとおり「内」「外」觀を保持した結果、晉朝は西晉末期～晉宋交替までの約百年を通じて、（北伐實行の頻度は時期により異なるとはいえ）洛陽の奪還そして華北の回收という國是を放棄しなかった。そのことが、華北の晉朝遺民や藩屏側の「勤王」意識を持續させたと考えられる。

(三)「華」「夷」の包攝

後漢以來の非漢人内徙政策の結果として、西晉初・中期には華北各地に分布する非漢人の叛亂および處遇問題が顯在化し、最終的に永嘉の亂によって西晉の全國統治體制は崩壊した。しかし西晉末期以降、晉朝は、永嘉の亂の主導者らを創始者とする中原の非漢人王朝を仇敵と定めながらも、晉朝體制内から非漢人を排除することはせず、むしろ非漢人を首長とする地方政權を藩屏として晉朝體制内に殘留させることに努めた。「華」「夷」の別が解消されたわけではないが、永嘉の亂以後の現實の情勢下において、晉朝が理想とする「天下」の範圍（統一期西晉舊領）を晉朝の「内」として維持するためには、「夷」を「内」から驅逐するという選択肢はもはやなかった。すなわち、「華」「夷」をひとしく「内」に包攝することは、晉朝皇帝が中國全土の主たることを標榜する限り、理念としても現實としても責務であった。